

斎藤月岑編『増補浮世絵類考』(ケンブリッジ本)

() は割註・ は書入れ・「」は見せ消ち

歌麿門人

菊麿

寛政より文化文政の人 北川氏 称六三郎(家守也 後月麿と改、板下多し、草双紙あり

一流なり、後年浮世絵をかゝず、名を觀雪と改む、この年柳島妙見堂へ鯉の額を納む

門人

門人

雪麿 画と止め作者となる 美麿 小川と改、歌川となり北尾と改

ヒレ紙

菊麿 文化中より小伝馬町厩やしん道に住、北川觀雪、家守いたし、俗名六三郎
觀雪となりし年、妙見へ鯉の額奉納いたし、同人より承り

式麿

俗称(空白) 小石川水道橋に居す、文化中歿、錦画あり

秀麿

俗称(空白) 下谷柳いなり社前に居(錦絵あり)
文化の頃錦絵あり

千代女

いまさうし有

二代目

歌麿

俗称(空白) 馬喰町に住す 二世恋川春町と云し人なり 書をよくす
故歌麿が妻に入夫せしなり 錦画あれども拙き方也
文化より天保の頃の人

(行麻呂)

欄外 月岑按るに歌麿門人行麿あり 雪麿は其人か 別人歟